MISSION kindergarten 幼稚園

子どもへの最高のプレゼント



子ども達の真の幸せを願う保護者の祈りが、幼稚園の教育理念と重なり合ったとき、質の高い保育は完成します。幼稚園選びは、親から子どもへ贈る最高のプレゼント。本園で育つ子ども達の成長の軌跡が、愛に溢れ、希望に満ちたものであることを祈りつつ、幼稚園は70周年に向け、新しい扉を開けながら、共に歩んでまいります。



在園児と卒園児の保護者7人による座談会の様子をお伝えいたします。



【在園児保護者】
- **松竹 景子さん**（小学3年・年長組）
- **八尋 桃花さん**（小学1年・年中組・年少々組）+夫が卒園生
- **淺原 成吾さん**（年長組・年少々組）
- **永岡　圭さん**（小学3年・年長組）＋妻が卒園生・中高卒業生
- **進藤 優介さん**（高校1年・小学1年・年長組）

【卒園児保護者】
- **平田 新菜さん**（小学6年・小学3年）＋ご本人が中高卒業生
- **森 恵里香さん**（福岡女学院中学3年・小学5年・小学1年）

※（　）はお子さんの現在の学年です。

女学院幼稚園に通って感じる魅力って？

進藤：園内で四季を通して果物が育つ過程を見て、実際に「今日、とって、食べてきたー」といった体験は、他には代えがたいです。
淺原：あの人数の園児たちが、自由に、一度に、全速力で走り、遊べる。図鑑に載っていることが手を伸ばせばそこにある。「リアル図鑑」な環境がいいですね。



永岡：小学3年の子が理科のテストで100点を取ってきました。「女学院に行ってよかった〜」と本人。時が経ち、何か生きた形で表れてくると実感してます。



幼稚園の詳細はこちらまで

幼稚園HP　幼稚園Instagram



進藤：お迎えの時、「先生、そんなに話すことがあるんですね！」というくらいたくさんの報告があります。子どもとしっかり向き合ってもらっていると感じています。他者と比較せず、自分の意思を持つ子に育っている。自分を大事にする心、それを幼稚園で育ててもらっています。



松竹：遊びながら気持ちも鍛えてもらっています。また、子どもがしたくないことは、みんなと一緒にしなさいと無理強いせず、試行錯誤、様々な方法を提示してもらってます。子どものやりたい気持ちを引き出してくれています。



八尋：子どもがしたいことを大事に尊重してくれて、そこがとても徹底されている。子どもが主体で、子どものために動いてくれています。だから子どもは伸び伸び過ごせて、そこから自己肯定感がすごく上がり、自分に自信がついていくと感じます。



全員：サッカーも、水遊びも、かけっこも、「先生がいつも全力！」

キリスト教保育って？

松竹：お祈りの時間があることで心を鎮め、落ち着けるよと聞き、実際に通わせて、子どもは真剣にお祈りしていていいなぁと思いました。
森：「キリスト教に限らず、子どものころから何かを信じる力があることはいいことだと思う」と当時の園長先生から聞き、本当にそうだなと思いました。
八尋：キリスト教のことは知らなかったが、入って安心しました。親子で讃美歌を歌ったり食前お祈りなど、一緒に学んでいます。自然にお祈りをしていて、感謝をすることを覚え、いいことばかりだと捉えています。



森：小学校の勉強についていけますか？と聞かれても、「全く気にならないよ」と答えられます。勉強をさせるより、子どもを思い切り遊ばせる方が難しい。そこから子どもは学ぶことが多いと感じます。
淺原：どんぐり山を見て、「遊ぶところです」と説明を聞いて、「ここだ！」と決めました。



幼稚園でお勉強をしなくて、小学校は大丈夫？

平田：入学前に少し心配もしましたが、結果、無駄な心配でした。幼稚園で子どものまっさらな土台をじっくり耕してふわふわの土にしてもらった感じです。その後の勉強を楽しく興味をもって吸収していったと感じています。

女学院に対する思い

平田：中高を卒業して思うのは、女学院ではキリスト教を柱として「考えること」「感じること」を大切にされていたように思います。決して押し付けではなく、のびのびと寛容な学校。「目には見えないけれど大切なもの」を通して、心が育つ幼児期を過ごしてほしいと願い、女学院幼稚園にお世話になりました。



森：中学校になったら女学院にもどりたい‼という気持ちが娘は小学校6年間変わりませんでした。学院全体の統一感があって、中高でも全力で応援してくれる先生方がいて、温かく守られていることに愛を感じます。自分を信じて未来に進む力で自分で選択できる子になっています。幼稚園で、あなたのままでいいんだよと教えてくださったことが土台となって、今、花咲いています。「また自分に生まれ変わりたい」という子ども。私は子育てに自信がなかったけれど、女学院幼稚園を選んだことが唯一、娘たちにできた最高のプレゼントでした。

